



「県人会創立 50 周年記念式典委員会発会式」 「会員交流懇親・誕生会」

3月16日（日）県人会創立50周年特別委員会発会式と第37回会員交流懇親誕生会が午前11時から行われた。多田副会長の司会で先亡者への黙祷があり、千田会長から委員会発会式にあたり、50周年式典は役員会だけで諸準備を進めるのではなく、会員一人一人の協力と総意を得て諸準備に取り組みたい旨の説明があった。

式典委員会の、名誉総裁には県人会名誉総裁である南部利昭氏（南部の殿様）。名誉委員長に菊地県人会名誉会長、委員長に千田会長、実行委員長に多田副会長、副実行委員長に高橋、藤村両副会長、書記に藤沢・峰両書記、会計に昆野・平野両会計、ほか、担当委員などの推薦があった。

杉村公使の墓碑整備状況や慶祝団日程予定表、50周年特別協力募金状況を報告、諸準備事項案や担当部署への協力要請があった。

また、諸行事予定にも触れ、50周年の景気付けとして5月に岩手の食文化紹介に「わんこそば」大会を、日本祭りには「冷麺」を紹介したい等の案が出された。

交流懇親会では、菊池達郎さん（モジ市在）の音頭で乾杯。食事後県人会サロンで日本舞踊教室を開いている、藤間芳苑さんの特別協力により日本舞踊（炎の蝶）が披露された。

誕生会はケーキを囲んでパラペンスで祝い、気持ちだけの祝い品も贈られた。

この会報が発行される頃



は、式典まであと僅か、急いで諸準備を一つ一つ調整しながら進めてゆく所存である。

「杉村公使の墓碑進捗状況」

去る3月22日、千田会長、多田副会長は杉村公使の墓碑整備や郷土芸能団リオ公演など、リオ州日伯文化体育連盟鹿田明義理事長とお会いし、心配された墓碑整備など話合ってきました。

第三代駐伯日本国公使杉村濤（1906年5月19日没）の墓碑（リオ市ボッタフォーゴ区サンジョアンバチスタ墓地）整備事業は、岩手県人会50周年・日本移民100周年特別事業として推進してきました。が、墓地管理局の制約により一時整備に多額の費用や手続きが必要な話でしたが、鹿田氏の各方面への奔走により、当初の計画通り整備出来る事になりました。

鹿田氏はリオ州日本移民100周年



サンジョアンバチスタ墓地

委員会理事長など公私共に忙しい中、業者に何回も見積りを取り県人会への連絡など、お墓整備にかかる熱情を深く感じると共に、県人会として深く感謝申しあげます。

既に鹿田氏の指示により、業者がお骨を掘り出し台座外面が出来上がっております。後は、碑が載る部分を強化、設計図面に合わせ御影石を切り、貼り付ける作業の後、サンパウロから運ぶ碑を取付けば完成。サンパウロでは、碑や台（家紋付）、100周年記念プレートのを磨き上げ、文字を刻むだけとなっており、整備は公使の命日までには何とか完成させたいと願っております。

県人会創立50周年記念プログラム

- 6月12日(木) 郷土芸能団リオ日系協会で公演。
- 6月13日(金) 県知事、慶祝団など杉村公使の墓参。
- 6月14日(土) 午後6時より、式典前夜祭「慶祝団との交流懇親会」 場所 県人会館 1階ホール
- 6月15日(日) 午前10時より「岩手県人会創立50周年記念式典」 場所 日本文化福祉協会大講堂
- プログラム 記念式典、記念祝賀会、郷土芸能まつり(郷土芸能まつりは一般に開放。整理券を発行致しますので、お友達をお誘い下さい)
- 6月16日(月) 海外県人会サミット。
- 6月17・18日 郷土芸能使節団地方公演。
- 6月19日(木) 郷土芸能団 援護協会福祉施設「厚生ホーム」での公演。

「図書寄贈」

(2月・敬称略) 宮田照夫 4冊、宮城義晴 2冊、芝美智子 3冊、上村順子 14冊、盛和塾ド・ブラジル 226冊、安田稔 20冊、真鍋勝美 69冊、フーチャン 47冊、計385冊

(3月・敬称略) 松井武 5冊、須田正雄 1冊、蓮田サツキ 20冊、伊東信比古 9冊、フーチャン 51冊、岩尾さま 64、清水一行 3冊、計153冊

県人会図書利用

2月 読者数 227名 918冊
3月 読者数 207名 834冊



大勢でわいわいと食べるとおいしさが増すわんこそば=写真東家提供

慶祝団情報

- ★ 県知事ご一行、日程6月9日から11日パラグアイ滞在、12・13日リオ滞在(杉村公使の墓参)、14日前夜祭、15日50周年式典、16日海外県人会サミット、同夜帰国。
- ★ 花巻市長一行、6月14日・15・16日サンパウロ滞在。
- ★ 郷土芸能団ご一行 12・13日リオ(公演予定)、14日前夜祭、15日式典、郷土芸能祭りに出演、16日から福祉施設慰問及び近郊都市で公演、19日帰国。
- ★ 賛助会慶祝団ご一行 9日パラグアイへ、ピラポ、12・13日リオデジャネイロ、14・15日前夜祭・記念式典出席後帰国。(一行には南部の殿様、高橋由一金ヶ崎町長も同行)
- ★ ニューヨーク県人会一行、16月14, 15, 16日滞在。
- ★ 岩手IBC放送(テレビ)から2名

行事のお知らせ

4月20日(日) 午前9時半から、東北ブロック青年部主催第6回運動会が、昨年と同じ場所「ジアデマの沖縄協会グラウンド」(Av. 7 de Setembro 1670 Diadema)で行われます。競技種目や賞品が沢山あり。ご家族お揃いでご参加下さい。会場ではお弁当や飲料水・ビールの売店があります。

バス(往復10レアイス)は、リベルダーデ駅ツニブラ前から午前8時半に出発。(前もってお申し込み下さい)

5月18日(日) 「わんこそばまつり」 県人会50周年、移民100周年特別企画として岩手の郷土食「わんこそばまつり」を行います。詳細は追ってお知らせ致します。

「わんこそば」とは、「じゃんじゃん」の掛け声と共に、手元の椀に放り込まれる一口量のソバを食べた椀の数を競いあう遊び心たっぷりのソバ料理です。

ルールは、椀のふたを開けてスタート。あとは給仕さんの掛け声に合わせて食べるのみで、終了の意思表示をする場合は、椀のソバを食べきった状態でふたをする。

食べ終わったお椀の数が記録です。ルールは時間無制限とか、15分、3分とかがあります。

因みに、いっぱい食べられるコツは、汁は余り飲まない。薬味も少々、ソバを余り噛まない事。大会記録は、時間無制限で559杯、15分で451杯が最高記録です。

「わんこそばの由来」 むかし岩手には、宴席に集まった客にソバを振舞う習慣があり、この時一度に大勢の客に湯でたてたソバを提供するため、少量ずつお椀に盛って出したことから始まる。

★ 「わんこ」とは「椀コ」お椀を意味する岩手地方の方言です。

Dreams Come True

ニューヨーク・大連・サンパウロetc...世界10カ国
二戸の酒米「ぎんおとめ」で造られる
二戸の地酒 南部美人は世界へはばたく。

南部美人を飲めるサンパウロの店
●Jun Sakamoto TEL. 3088-6019
●A-1 TEL. 3145-1833



株式会社南部美人
岩手県二戸市福岡字上町13
TEL.0195-23-3133
FAX.0195-23-4713
E-mail:sake@nanbubijin.co.jp
ホームページ毎日更新
http://www.nanbubijin.co.jp
●お酒は20歳になってから

- 2月23日 千田会長岩手放送から依頼があった大正10年移住された武田貞吉さんの遺族住所を訪ねる。
- 26 武田貞吉さんの長男栄一さんから連絡あり。消息依頼の用件を伝える。
- 28 国際課主事矢羽々氏から郷土芸能使節団一行の日程案の知らせ受信。
- ☆ リオの鹿田理事長から墓地整備について、墓地管理所担当者とは話がついた。見積もりを頼んだ旨の連絡あり。
- ☆ 県連代表者会に会長出席。通常報告と故郷巡り、日本祭り、総会開催日、定款改正案委員会結成など。
- 29 パラナ州ピライ・ド・スール市長より、市制50周年につき七夕飾りの協力依頼があり、宮城県県人会に再依頼する。
- ☆ 会報156号を国内外に発送。
- 3月4日 岩手日報報道部川井博之氏より「世界は今 県人リポート」執筆について黒沢ゆり子さんへの具体的テーマについて受信。
- ☆ 矢羽々国際課主事より首長訪問者について受信。花巻市の状況について送信。
- 5 岩崎NY県人会会長より県人会50周年・移民100周年について問い合わせあり。
- 7 河北新報（宮城県）の加賀山仁記者より「ブラジルの東北人」連載記事の送付あり。岩手県人ではアチパイアの及川さん、南部美人酒造と県人会の出会いなど掲載。
- 10 リオの鹿田理事長より墓地管理所と石碑業者との話がついたと情報あり。折り返し鹿田氏に郷土芸能団リオ公演について打診。
- ☆ 県より、広報いわて、農業普及など受領。広報金ヶ崎の送付あり。
- 13 矢羽々国際課主事より、県知事、岩手民謡協会に芸能団派

遣要望書送付の依頼あり。

- 14 吉田恭子さんより現在までの慶祝団参加者名を受信。
- 15 NY佐々木まり子さんより、NY現代美術家活動の報告と・ブラジル県人会50周年式典の成功を祈る旨受信。
- 16 県人会50周年委員会発会、第37回会員交流懇親・誕生会あり。約70名出席。
- 17 河北新報の加賀山記者より郷土の味、盛岡冷麺2袋せんべい汁2袋の送付あり。
- ☆ 県北栃主査より、ベレン県人会について受信。早速連絡。
- 19 県より芸能団員参加者12名。50周年プログラムについて情報要請あり。
- 22 会長、多田副会長、杉村公使の墓碑整備、芸能団公演についてリオ訪問。
- 23 県北栃主任より、海外県人会助成金決算報告の要請あり。
- 26 山形県人会で行われた東北ブロック演芸祭、運動会会合に会長、多田副会長、昆野会計出席。
- 27 高橋満男氏（JA岩手農協勤務）から、退職の通知あり。
- ☆ 岩手民謡協会藤沢清美会長と、派遣団員について連絡。
- ☆ 県連定期総会に会長出席。
- 31 東京でフットサル教室経営者、菊池洋輝さん（写真下・遠野出身）来館し懇談。後、宿泊先の秋田県人会へ案内。



寄付・寄贈（2月）敬称略

お茶菓子 佐々木 憲輔、図書利用者より。
カラオケテープ2箱 塚田よし子

会費納入者名（2・3月）敬称略

2月22日以降、村松 弘一、上村 敬子、谷川 トシ（新入会員、阿蘇沼さんの親戚）

3月 千葉 和枝、川原 美智子（新・賛助、東京、読者）、平尾 宏子、菊地 満、星 キミ子、藤沢 裕、小畑 とも子、大森 仁太郎、菊池 達郎、佐々木 栄、峰 きよ子 ソフィア、山口 セシリア、長野 長勇、川村 益夫 ネルソン、高橋 信男、及川 信子、千田 健一 ロベルト

4月4日まで 宇佐美 克己、高橋 万右衛門

県費留学生・研修生募集中

県人会では、2009年度県費留学生・研修生を募集しております。希望者は県人会までお申し込み下さい。

県人会50周年特別協力者名（敬称略・2月3月）

ご協力ありがとうございます。ご協力の中には当地賛助会員や図書利用者の協力もありました。（Boletoでご協力の方は銀行の通知を待って（10日位）お礼状と領収書を発送致しております。従って、原稿締切りにお名前が載らない場合がありますが、次号には掲載されますので悪しからず）

2月 藤堂勝次 250、村上宮田くき子 100、久保和子 300、石川百合子ジュリア 50、渡辺剛一 100、上村敬子 100、内海博 50、栃沢千秋 100、切田政巳 50、巖岩毅 50、村松弘一 2500

3月 佐々木憲輔 900、山道慶大 200、千葉直義 300、岩船孝之 50、岩船孝之マルセロ 50、江口寅彦 50（特）、原口喜美子 30（読者）、栃沢千秋 200、平尾宏子 300、星キミ 100、吉田重雄（盛岡・賛助会員の会会長）1600（10万円）、小川澄子（故・小川信氏夫人、盛岡・10万円、県交流協会へ振込み）、佐々木寛一 50、佐々木久六 60、唐沢みつ子イザウラ 50、及川まゆみ 50、元粕司 100、大森仁太郎 250、大志田寿 300、佐々木栄 100、千田輝海 500、川村益夫ネルソン・ゆり 300、岩上至・エリカ 300、山口セシリア 300、高橋信男 50、久保ジョージ 60、成木ルミソニア 300、藤堂勝次 250、高橋典子ルイザ 300、加納ナカ 50、切田政巳 50、田口晃基 500、久保ジョージ 60、高橋巳之吉 1200、巖岩毅 50、渡辺剛一 50、昆野昭仁ワシントン 300、昆野とし子 300、塚田よし子 300、菅原圓雄 5万円（花巻・県交流協会へ振込み）

4月4日まで 宇佐美克己 50、高橋万右衛門 300、山道慶大 200

父娘二人旅

文 畑勝喜・写真 畑カーナ真樹



万座毛の景観

バスは、「沖縄本島随一の絶景を誇る景勝地」として知られる”万座毛（まんざもう）”へ到着した。”もう”とは芝生の事だそうが、断崖絶壁の上に、緑の

どこかで見た様な風景だと思ったら、ブラジル最南端の州リオ・グランデ・ド・スールのトーレスと云う町にある、モーロ・ド・ファロール（灯台の丘）の風景にそっくりだと思いついた。灯台の丘は大西洋に面して開がり、登ると平らな台地で、緑の牧草と白い灯台がまるで絵に描いた作品の様に広がっている。崖っぷちに遊歩道が続き、下を覗くと万座毛と同じ位置に大穴があき、大波が打ち寄せている。ただ違うのは、こちらは大西洋から登る朝日が有名な事である。

『お菓子御殿』

昼食に案内されたのは、甘党にはたまらないその名もお菓子御殿。首里城を模して造られた堂々とした朱塗りの御殿。下が広大なお菓子売場で沖縄独特の紅芋を使ったショートケーキやら、干菓子等がずらりと並んでいる様は、壮観である。そして二階が、東シナ海に面した展望レストラン。ツアー客には海ブドー御膳が出され、海ブドーをたっぷり使ったどんぶりや、紅芋の冷たいケーキがデザートに新鮮な海の幸としてお盆の上に乗っている。娘は「幸せー？」とか云い乍ら食べ始めた。同席した二人のご婦人。バスでは私たちの斜め前に座っている人達で「どちらから？」と聞いて来た。「はア、ブラジルのサンパウロからです」ブラジルと聞いて、俄然興味を持った様で「向こうじゃ、学会の活動が盛んなそうですね？」この会話でこの人達は創価学会のメンバーだと分かった。「ブラジルの文化祭の映画を見て、その中で踊っていた衣装が気に入って、わざわざ取寄せて同じ物を作り、私達も東京の文化祭で踊ったんですよ」。何と地球の反対側でこんな話が出るとは思いもしなかった。ご婦人達が見たという映画こそ、私が制作した



新鮮な海の幸一杯の海ブドー御膳

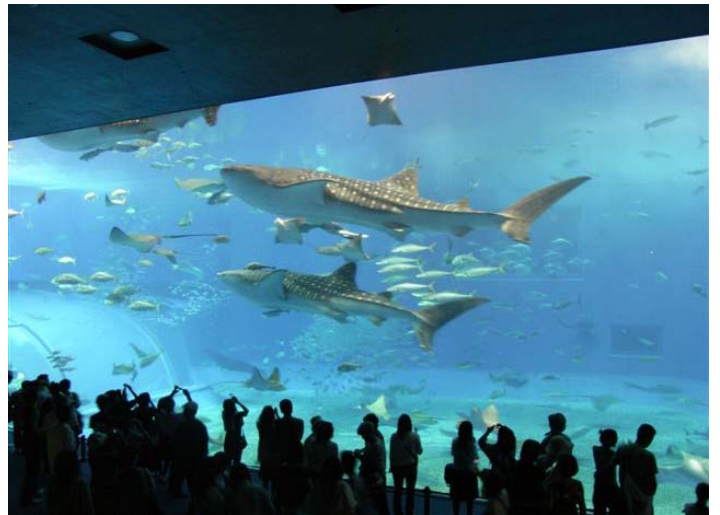
『観光バスの旅』

バスは、「沖縄本島随一の絶景を誇る景勝地」として知られる”万座毛（まんざもう）”へ到着した。”もう”とは芝生の事だそうが、断崖絶壁の上に、緑の

ものだったのだ。当時、ブラジルではS理事長以下幹部達の指導で、”折伏”による会員獲得運動が盛んに行われており、その凄まじいエネルギーをぶつける文化祭が華麗に、或いはダイナミックに開催されていた。私共ではサンパウロのアニエンビーやイビラプエラ、ブラジリア、フォス・ド・イグアスー等で行われた文化祭を作品にしたのが、その中の1本。アニエンビーで撮ったものを、ご婦人達が見ていたのだった。その頃はまだビデオではなく16mm映画の時代だった。

『美ら海（ちゅらうみ）水族館』

ツアーの最後は、「沖縄美ら海水族館」。ここは海洋博の跡地に造られたもので、私が最初に訪ねたのは1990年の事。当時は5mのジンベイザメが悠然と泳ぐ姿に感動し、今回の旅では娘に是非見せたいと考えていた場所で、その頃は沖縄記念公園水族館と称していた。ところが今回行って驚いた。当時と全く別の所に白亜の殿堂として建てられていた。この中に幅35m、奥行27m、厚さ60cmという巨大なアクリルパネルの水槽があり、水族館の窓としては世界最大でギネスブックにも認定されている。この大水槽の中では、全長7mのジンベイザメ



大きなジンベイザメが泳ぐ水族館

3匹、マンタ4匹の他に、1400匹にのぼる海洋生物たちが、まるでフタ昔程前に流行したシネラマの大スクリーンの中を泳いでいるみたいである。啞然として、呆然として、龍宮城へ行った浦島太郎の気分になれる「沖縄美ら海水族館」であった。

『ライブ屋』

沖縄最後の夜、私としては優雅な琉球舞踊でも観賞しながら琉球料理でもと思っていたのだが、娘はライブハウスに行きたいと云う。私は娘に敬意を表して那覇一の繁華街国際通りの”碧の海”という店に入った。スクリーンにはサンゴ礁の海の風景が映し出され、小さなステージでは沖縄の人気バンド・ビギンの一人にそっくりなミュージシャンが、ハーモニカを吹きながら三線を弾いたり、ギターを奏でながら島歌を歌ったり、それに合わせて若い女性客達が踊ったり歌ったりと、盛上っていた。彼は「今日のお客さんで遠くから来ている人は…」女性客達は手を上げて、福岡、広島、横浜、とか云っている。距離ならば絶対に負けないと娘がサンパウロ、と叫んだ。彼は「地球の反対側から、ご苦労様です」と云って拍手したので、私は「当店からのサービスですが、何を選びますか？」

と聞いて来たら、すかさず「海ブドー」を注文しようと娘と相談していたのだが…それは無かった。一期一会を地でゆく様な、楽しい沖縄の旅であった。以下次号へ

たきざわむら
滝沢村

(滝沢村ホームページより)

滝沢村は、盛岡市から8kmの北西部に位置し、明治22年滝沢村、鵜飼村、大沢村、篠木村、大釜村の5カ村が合併。面積182km²、人口52,798人と日本一の村である。

村の北西部には秀峰岩手山をいだき、雫石川、北上川が流れ、気候は内陸性気候である。岩手山麓部から平坦部にかけて、酪農、稲、野菜類、を主体とした都市近郊農業地帯である。観光イベントは「チャグチャグ馬コ」が有名で、毎年6月滝沢村の倉前神社から、盛岡八幡神社まで100頭の馬が15kmの道のりを行進するお祭りで、馬に飾りつけ沢山の鈴が特徴で、歩くたびにチャグチャグと鳴る鈴の音が名称の由来と云われる。

また、同地方には岩手県立大学が開学したことにより、盛岡広域圏における研究学園地域としての機能も強化された。



Associação Cultural e Assistencial Iwate Kenjinkai do Brasil

ブラジル岩手県人会

RUA THOMAZ GONZAGA, 95-M - CEP 01506-020 - LIBERDADE - SÃO PAULO - BRASIL

TEL/FAX (11) 3207-2383

www.iwate.org.br - e-mail: iwate@iwate.org.br

※ ブラジル岩手県人会ニュース 2008年4月発行 157号